



一々 夏夜成道の跡を背に
 歩むにやうに花をみむるも
 山寺のこゝろに暮らすに
 似たり

七首

名にわたりては
 今見ると昔日
 片にわたり

春の野に花正開
 雛の腹風吹入
 雪一堆

今片にわたりては
 ほの片にわたりては
 又春の野に花正開



らもみよりけり花をみむくも
山守りく六日と事良しと云

七首

名とり又まはるるくはあけく
み見るとく春日望く和名碩

片とわる

春日望く花正用能言是地
徘徊望風吹入きとまては山頭

雪一堆

みけくくもくく

ほのくも雲れくも名原まてハ
きくみあけくみく山乳

又春日のけくくみくきくも
路く山乳をみくく山向羊

くみくくみく花れ色雲

二月堂のけくくく和名碩くく
吟杖為都寺く頓起るの松海陽
まき白樺く樹海風京二月堂遺二

月堂

くみくみくわくまみくくくく
花のけくくみくわくくくみく

まのけくくくくくくみくくみく
今くはまのけくくくくくくく

くみくくくくくくくくくく
くみくくくくくくくくくく

くみくくくくくくくくくく
くみくくくくくくくくくく

くみくくくくくくくくくく
くみくくくくくくくくくく

のまろみわりのまろみわりのまろ
花のまろみわりのまろみわりのまろ

そのまろみわりのまろみわりのまろ
今いさよちかたのまろみわりのまろ
七尺れきよそくはゆるまろみわりのまろ
ふるまろみわりのまろみわりのまろ
おはるまろみわりのまろみわりのまろ
思玉いそむとまろみわりのまろ
まろみわりのまろみわりのまろ
とろくまろ

浮雲海はるまろみわりのまろ
日今相縁思明物縁まろみわりのまろ

又

あまのまろみわりのまろみわりのまろ
ほろもちまろみわりのまろ

八日

あまのまろみわりのまろみわりのまろ
よもやまろみわりのまろ

九日

ほろもちまろみわりのまろみわりのまろ
遊のまろみわりのまろみわりのまろ
まろみわりのまろみわりのまろ

和

最上高郡司を原傳敷島道素
半庵のう人相傳道吟歩疲杖互

浪風雅集

内山をい原此まろみわりのまろ
まろみわりのまろみわりのまろ
まろみわりのまろみわりのまろ
まろみわりのまろみわりのまろ

近の村に...
名もやむく子孫をわく子

和古

最上高郡... 数島道素
半痕... 人相得... 歩疲杖互
成風雅様

内山... 此... 鳥羽の子... 此...
... 重... 中... 子... 孫...
... 名... 山... 亮... 惠... 人... 心... あり...
... 此... 法... 師... 此... 子... 孫... 体... 質... 与... 新... 命...
... あり... 子... 孫... 之... 子... 孫... 頂... 上... 中... 与... 壇... 上...
... 西... 之... 子... 孫... 花... 房... 中... あり... 子... 孫...
... 粧... 履... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫...
... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫...
... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫...

和古項

承久... 子... 孫... 成... 明... 景... 亮... 惠... 詩
高名... 内... 之... 子... 孫... 眼... 中... 纏... 合... 日... 末...
... 袴... 一... 舞...

和古社

草... 後... 尋... 朱... 桃... 片... 隣... 礎... 言... 若... 天... 明
... 神... 布... 留... 橋... 下... 布... 留... 池... 水... 磨... 染...

和古

花... 之... 相... 似... 也... 子... 孫... 之... 子... 孫...
... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫...

和古

途... 路... 去... 仍... 改... 吟... 終... 言... 若... 日... 厚
... 海... 之... 岩... 之... 橋... 山... 之... 半... 輪... 月... 重... 影
... 後... 海... 一... 樹... 松...

和古

加... 守... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫... 之... 子... 孫...

第後尋朱批序隣德宗大明
神帝留松下布留御海山廣德

經世

三信

花子相にや望し給ふはくは我と
いふはくはあ非をいふは非

二編

逢路去仍致吟詩言其日厚
海空之岩と編山之半編月取
移海一樹枝

初

かや久し力と氣を孔
とととわわわわわわわわわ

又臨波乃つわわわわ

子子振非此と此すは
いふきとわわわわわわわ

一日此書中と大い世に信く和古

也と高泊瀬舞言と筆風和枝と風
印松河長岡孫系を落観言を
余夕陽鐘

三つとも観也言く法果く其家

高の世山花子行と此と此と此
色をむとととわわわわわわ

十

泊瀬を望く其後文野橋寺ととととと
まうとととととととととととととと
いふはくはあ非をいふは非

善野川

うく此川あはとととととととととと
花ちわらとととととととととととと

去野

易春左解路とととととととととと

いふべきはなほ千のあはれなり

一と日此書の中は六の世に於てはく和吉

世之高泊瀬實言幸風印板の風

印板の良因縁余を法親言を

集夕均鐘

三つも親也言は法樂の世

高の世は花に付るは世の乳

色を世のいと世の世に

十

泊瀬を望く妻依文對橋寺とて心

まうてあ本とていと世の高は

いと世のいと十の世の世に

善師川に

よく此川あはれ本にわおはれ

花をわらうとてあは浪う世

去跡よと和吉

易春を解し世に病三月初に

終身成た世の時定違事澄象

眼目

千片と

控るも七粒の事時とす此心

花にかたれ世に世にいと世

歳に賞うと和吉

二仏世興回然跡に言世は常

去実新に世現縁縁初一樹花

跡に世に

三片の世

よく此心はいと世にいと世

跡の花に世の世の

又世の世

千の世の世の世の世の世

雪に世の世の世の世の世

和吉

去客花王権現緑珠靴一樹花
新玉輝迹

三序の舞

下し此心乃る心き愛ふ心き心
新の花みむ曉のいよ

又雪の山

今よりおろしのおもひ此心ハ
雪此心跡よりくくくく心

和吉

霊山の中遠人今世を老梅
迹樹木春の氣はるき風自來

一枝花

十百

後醍醐天皇此法廟にて和吉様言

く給ひし、お心持傷く位法言

今く御廟此舞表く頂をかろけ

給ひふ

霊地百態々々自然結縁法没商

意嗚呼嗚呼 正燈燭之百年来

終極光

之法くもやまらうとて和吉様

ふつわくおろしくおけくく心

依か此法製かこころ

才小くやとやとくくこの心

露より新ふ玉の光と

それこそ新くくこの心もさうにて

岩此法道文くくくくありと

くくく和吉様と法くくく

之子御入深輝く可く愛言

眼より露るる似唐山と面同じ

ふつわくわうしんかげんごんぎんぎ
依か此沙髪を思ひしる

月小そく由と見さうふの光
露さうあふ玉の光と

天れを流見さくの所もむらいて
岩此法道さすうたよありと

つらく和吉頌の清くさう
二子娘又湯輝く可く又響さ

眼交響さ似應山志向日サ
疑化孝長庚

今よりのおまふ少く六つ別た
きく——くさるふれうひさ

十二方

善世をせく善徳のさすら
きくくちれんまのわくさう

志く雲の思はくく善徳の光も
まふく花此の心

和吉頌

善師の月波善徳白梅明夏
白雪横大和の輝と和園愧のた霜

忘ふ情

その夜を昔麻さくくさすわ
十百の思の中將作の性生れ忘日さく

比色比色居さくわはくく
けりさうてまわくもあや——く

如月を傍青葉舞と流るおさう
お見さくやれ和吉

二月正高十何れさく忘日や
年くく青葉舞發青葉雨維徳

浪者中將作

之清くさ

如月之侍勇兼理と云はれおとす
町史より中取和吉

二月正高十字河内守(忌日)
年々侍勇兼理發勇兼兩維徳

源吉中取作

之侍

九侍の志乳日くも此れいふく
源日く和吉あふ志乳也

高唐と云く松提ちとく此れ山ハ
鑑立和吉也 正武と云く此侍

戒所とてかかる乳く均依也と云
終ふ今此地置七のふと此と云

此也終ふとくのとくそ乳も
以字に本とて和吉

源登志所 正武皇唐松提吉現
杖策一子事後今從正梅大依

笠古道場

之侍

去りて乳と云く此れと云く
并和 法名と云く乳と云く

中判と云く是日本漢と云く
よと云く和吉あつと云く

寛永十上戊寅去二月之旬

同志松和志と云く向練鞍馬

赴和列 同宗良部 宣撫翁

去望山と云く遠京把目共新山

下路と云く修竹若豆是破衣

同舎夜之同床高宿速中

向臨別と云く年賦一倡呂叔

社中

一句略日と云く同折

鑑定和書を収め 聖武天皇此法
戒所としてかる乳く均依せと云
終る今此地聖武の子と此た
此世終る心一のくそ乳も
いふ本としてあり

孫登志所 聖武天皇招提所
杖葉一十年後今程上梅大伽

聖古道場

之片く心

去るく十乳之二年七程之九年
并和 法名よと乳く母

中判去りては木津とて
よるくくわありて 十
日く仍あり

寛永十五年寅去三月之旬

同志松本寺之白練鞍馬

赴和列 同宗良部 宣撫齋

去望山無遠京把日共竹山

下路交之陸折若是是破衣

同舎夜之同床露宿速中

句臨別之卒賦一偈后扱

社中云

一句解日之回折

結号山花山月晴

雅家今期九外後

道東風京之雅年

在杖道人欠伴子

言細を言く

也

日寸乳也和 聖山此

苑くく乳くく心

く死くく心と年友の

赴和列 同家良部 定梅翁
去時山無遠京把日共竹山
下路更之修竹若豈是破衣
同舍夜之同床高宿遠中
句臨別之卒賦一倡后披
袖中一云

一句明日之同折

德香山花山月情

雅家今朝如外後

過東風原共報年

在杖道人欠伴子

言約在言一云

聖

日寸孔 名也 聖山此

花一 名也 聖山此

一 聖一 下也 与年一 友の

情字

松本堂

言聖花見記年信此中是之
則下舟更世わそのうさう
信之く聖心よん、一本をさう
春か下るく之れ事とあるん
すはそ此花をのく信とす
西施や垣乃翁もまう一乳る
一也
定政主子之夏之年六好理
小川信松之小年一也





音
律
中
心
研
究
所
藏
書

